



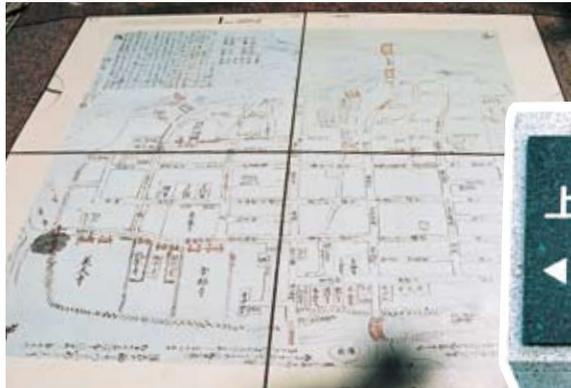
発掘陶器絵図



葛城地藏尊
(左の入り口から奥へ)



蒙古碓石



博多古地図



道路表示板



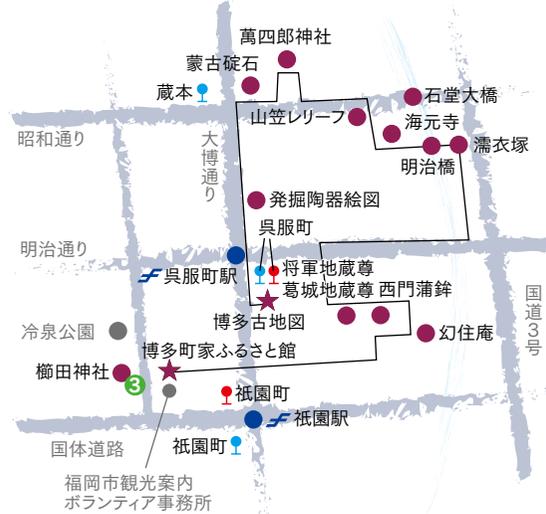
幻住庵



西門蒲鉾



萬四郎神社



山笠レリーフ



明治橋の欄干



濡衣塚

博多小話

博多区(御供所・呉服町界隈)

巻頭マップ④

耳を澄ますと聞こえる博多情緒

福岡市内を代表する大博通りや昭和通り、この表通りから一歩足を踏み入れるとまるで昔の博多にタイムスリップしたような町の雰囲気に出会えます。小路で目を閉じ、耳を澄ますと、どこからともなく歴史の話し声聞こえてきそうです。今回は福岡市観光案内ボランティアの大島久江さんの案内で「博多情緒めぐり・博多小話コース」に出かけました。

博多町家ふるさと館を出発し、東の白隠、西の仙厓と言われた「仙厓和尚」の隠居所「幻住庵」を観て、江戸時代に「芸能横丁」と呼ばれた「普賢堂界隈」を通り下町の風情が残る「富士見坂(当時はここから糸島富士が見えた)」に祀られている「葛城地藏尊、將軍地藏尊」を拝観。続いて御笠川を渡り、無実の罪を負わされるという意味の「濡れ衣」の語源となった「濡衣塚」を参観し、再び川を渡り閻魔様に由来のある「海元寺」、遊女の投げ込み寺「選擇寺」を回り、呉服町ランプ下の「山笠レリーフ」を見て、博多の豪商伊藤小左右衛門の幼児二人を祀った「萬四郎神社」(浜口公園よこ)、そして大博通りの歩道に設置の「蒙古碓石」「発掘陶器絵図」を経てゴールの「博多古地図」に到着です。万歩計を見ると四五〇〇歩を示しており、一時間半の「宝物探し」を満喫しました。次に散策中に見つけた穴場を紹介します。優しい顔立ちが印象的な「葛城地藏尊」。こち

らのご利益で旧上魚町では昔から大火もなく、太平洋戦争での福岡大空襲の際もここは残りました。また出征した町の青年が一人残らず無事帰還したことから生き残り地藏と呼ばれて厚い信仰を集めています。

「濡衣塚」には筑前守護職・佐野近世の後妻による嘘が原因で殺された先妻の娘「春姫」が亡霊となって無実を訴えたという悲話が残っており、春姫が詠んだ歌「濡れ衣の 袖よりつたふ涙こそ なき名をながす ためしなりけり」は今も語り継がれています。

また「海元寺」の閻魔堂には地獄の支配者「閻魔大王」と、三途の川で着物を剥ぎ取る「奪衣婆」の像があります。毎年一月と八月の十六日のエンマ祭りでは、この老婆に灰汁(あく)＝悪で固めたコンニャクを供えて、病気のあくをとるよう祈る風習が残っています。そのため老婆は「コンニャク婆さん」として親しまれています。何とも博多らしいユーモラスな話です。

- アクセス
 - 地下鉄「祇園」駅
 - 「呉服町」駅
 - (福岡シティループバスぐるーん)
 - ③ 櫛田神社・博多町家ふるさと館前
 - 西鉄バス「祇園町」「呉服町」
 - JRバス「祇園町」「呉服町」

■コース散策:約1時間30分



ボランティアガイドの大島久江さん